

テーマ：『 地域の自然とのかかわりを通して育む観察、実験活動による環境教育 』

筑前町立 東小田小学校

Tel. 09 4 6 - 4 2 - 担 当 田中裕二

2 0 2 7

者：



■実践内容：

筑前町立東小田小学校では、環境教育の推進内容の基本方針として、各学年の教育計画を基盤にいたしました。めざす子ども像として、学校内外における自然体験活動を中心に問題解決の能力や自然を愛する心情の育成、自然の事物・現象についての実感を伴った理解や環境に関する理解と実践的態度の育成に取り組みました。特徴的には、低学年におけるあさがおの種まきと観察、夏野菜栽培、中学年の四季の生き物調べ、高学年のメダカの成長観察やCO<sub>2</sub>問題に関する実験、及び校外の環境教育体験として町の自然観察、町探検、地域の方々の協力によるうるち米・もち米の栽培などを通して私達にやさしい環境づくりを行う科学的な見方や考え方・判断力をもつ実践を試みました。

■実践成果：

草花・栽培植物、樹木・昆虫など子どもたちを取り巻く自然的環境に直接触れることのできたこれらの活動を通して、「なすのお世話が楽しい」「空気がおいしい」と発言するなど子どもたちが自分たちの住む町や地域の身近な環境により深いかかわりや意欲を示すようになりました。また、生き物を図書室の図鑑を使って調べたり、生き物の環境や生態についての知的好奇心や自然を見る目と自然を守ろうとする豊かな感覚が以前に増して養われつつあります。また、高学年においては、学習内容に応じて環境と自分の生活とのかかわりを考えることを通して、積極的に校庭の美化作業や地域リサイクル活動に参加するなど実践的態度の高揚をみるようになってきました。

■実践ポイント：

重視する体験として、自然体験活動・科学的な見方や考え方をもつ実験活動において、子どもたちが自然の事物や現象に働きかける際には、明確な活動目的と五感を大切に子どもたち自らの働きかけの体験を重視して取り組みました。また、問題解決学習において子どもたちの持っている知識や能力を活かして、自分たちの生活に深くかかわる身近な周りの環境(地域)を活動の基本とし、そのためのフィールドワークや地域の自然体験活動としての充実を図りました。また、実践目標として、環境を守り育てる活動に関心をもち、環境保全や環境問題に積極的に参加する実践的態度の育成を目指しました。